

## 2012 (平成 24) 年度 学会活動報告

2012年6月19日(火) ホームページを開設した。

2012年6月30日(土) 2名の報告者を迎えて、第7回例会を東洋大学白山第2キャンパスで開催した。

(1) 栗原 久 (東洋大学)

経済教育の現状と課題—経済リテラシーと公民的資質—

(2) 高畑 緑 (東京都立町田の丘学園)

特別支援教育との出会い

2012年8月20日(月) 「会報」第80号を発行した。

2012年11月3日(土) 中等社会科教育学会第31回研究大会を筑波大学文科系修士棟で開催した。

2013年3月31日(日) 『中等社会科教育研究』第31号を発行した。

## 2013 (平成 25) 年度 学会活動計画

2013年6月8日(土) 2名の報告者を迎えて、第8回例会を筑波大学東京キャンパスで開催する。

(1) 松本 康 (信州大学)

授業分析の課題と方法

(2) 原 和久 (東大阪市立孔舎衛東小学校)

民間人校長が見た学校教育現場

2013年8月28日(水) 「会報」第81号を発行する。

2013年11月2日(土) 中等社会科教育学会第32回研究大会を筑波大学文科系修士棟で開催する。

2014年3月31日(月) 『中等社会科教育研究』第32号を発行する。

## 事務局便り

### 1. 学会費納入のお願い

遅くなりましたが、2013年度の学会費振込用紙を同封いたしましたので会員の皆様の納入をお願いいたします。学会費は当学会の唯一の財源です。どうぞよろしくお願ひします。会費未納の場合には、学会誌の送付を一時停止しますことを予めご了承ください。

振込番号や名義、会費は以下のとおりです。

**振替番号：00350-4-7442 名義：中等社会科教育学会 会費 3,000 円**

### 2. ホームページ開設のお知らせ

中等社会科教育学会のホームページ (<http://www.chuusha.jp/>) を開設いたしました。学会に関する情報を随時更新しておりますので、御覧ください。

### 3. 中等社会科教育学会・授業実践研究部会の活動記録及び、ご参加のお願い

第31回全国研究大会総会（2012年11月3日）において、出席者の賛同を得て、授業実践研究部会が発足いたしました。当部会の活動目的、組織等は以下の通りです。

#### ○ 目的

- (1) 当会は、中等社会科教育学会の下部組織として機能し、学会活動の発展に寄与することを目的とする。
- (2) 当会は、社会科教育の研究者・学生と学校現場における授業実践者との相互の交流、情報交換を通して、社会科教育における研究と実践を深化させることを目的とする。

#### ○ 内容

- (1) 当会の参加者は、原則として、中等社会科教育学会員とする。
- (2) 代表者、及び運営委員を置き、当会の運営にあたることとする。
- (3) 社会科授業実践をめぐる研究発表及び討議を行い、学校現場に即して、授業実践に関する研究を深める。
- (4) 年4回程程度の定期会合を設定し、参加者相互の連携を深めるとともに、情報交換の場としても機能させる。
- (5) 部会開催の告知は、学会ホームページ等、電子媒体上において行うこととする。
- (6) 当会の経費は、中等社会科教育学会総会の承認の下、学会予算から必要に応じて計上することができる。

#### ○ 組織

- ・代表者 三橋 浩志(文部科学省)
- ・運営委員 野口 剛(帝京大学) 栗原 久(東洋大学) 須賀 忠芳(東洋大学)
- ・事務局 〒112-8600 東京都文京区白山5-28-20  
東洋大学国際地域学部 第36研究室  
須賀忠芳 (メールアドレス t\_suga@toyo.jp)

また、当部会では、今年度、以下のような会合を開催いたしました。

・第2回例会

期 日 平成 25 年 7 月 6 日 (土) 東洋大学白山キャンパス

内 容 ①研究実践発表

杉田孝之氏 (千葉県立千葉西高等学校)

「世代間格差と社会保障の授業設計－政治教育、経済教育を手がかりに」

②情報交換

「新任教員として直面する事柄及びその苦悩」

(石川知行氏 (茨城県立東海高等学校)・渡部康詞氏 (埼玉県立狭山緑陽高等学校))

「東京都歴史教育研究会 (都歴研) の活動について」(加藤健氏 (東京都立石神井高校))

・第3回例会 特別会「模擬裁判を通して考える法教育のあり方」

期 日 平成 25 年 8 月 25 日 (日) 東洋大学白山キャンパス

内 容 藤井剛氏 (千葉県立千葉工業高等学校) による「模擬裁判」授業の実践報告

パネルディスカッション:「模擬裁判」の授業実践をめぐって

藤井剛氏 (千葉県立千葉工業高等学校)・村松謙氏 (弁護士)

・第4回例会

期 日 平成 25 年 12 月 21 日 (土) 東洋大学白山キャンパス

内 容 ①研究実践発表

藤本和哉氏 (筑波大学附属高等学校)

「世界史Aにおける指導と評価をつなぐ試み－定期テストを軸とした一体化イメージ－」

②情報交換

「若手社会科教師及び志望者が振り返る、私の受けた社会科授業」

(成田亘氏 (福島県立会津高等学校)・高松拓哉氏 (東京大学大学院教育学研究科))

・第5回例会

期 日 平成 26 年 3 月 22 日 (土) 東洋大学白山キャンパス

内 容 ①研究実践発表

西尾理氏 (東京都立国分寺高等学校) 「水俣病の授業実践」

②情報交換

「教員採用試験からみえる社会科教育のあり方～現役受験生の観点から～」

(筑波大学大学院生)

4. 住所変更のお願い

住所変更などがありましたら、お早目に事務局へお知らせください。

5. 新入会員の募集

中等社会科教育学会では、研究活動の推進と発展を図るために、新入会員を募集しております。次頁の入会申込用紙を複写して必要事項をご記入の上、事務局宛てにご送付ください。受領後、こちらからご連絡します。

【中等社会科教育学会事務局】

〒 305-8577

茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学人間系社会科教育学研究室

中等社会科教育学会事務局 宛

Mail : chuushagaku@yahoo.co.jp

年 月 日申込

年 月 日受付

中等社会科教育学会入会申込書

フリガナ	
氏名	
生年月日	
勤務先住所 勤務先  (職名)	〒  ( ) Tel ( ) E-mail
現住所 連絡先	〒  Tel ( ) E-mail
学会誌などの送付先	〒  Tel ( ) E-mail
最終学歴	
研究または関心を持っている課題	
*承認	年 月 日承認
【 備考 】	

\*印の欄は記入しないで下さい。

## 2012—2013年度 中等社会科教育学会役員

任期：2012（平成24）年4月1日～2014（平成26）年3月31日

会 長 田林 明

副会長 江口 勇治 谷田部玲生

事務局 唐木 清志 國分 麻里

学会誌編集委員（◎は委員長，○は事務局長）

◎井田 仁康 大野 新 鎌田 和宏 川崎 誠司 栗原 久 ○須賀 忠芳  
田尻 信壹 寺本 誠 丹治 達義 野口 剛 藤本 和哉 谷田部玲生  
山口 泰宏

評議員

渥美 利文 飯島 睦子 石本由布子 磯山 恭子 井門 正美  
茨木 智志 大野 新 小野 智一 加藤 公明 草間真智子  
熊田 禎介 栗原 久 今野日出晴 佐藤 秀樹 須賀 忠芳  
杉浦 正和 田尻 信壹 高橋 健司 外池 智 中切 正人  
松岡 尚敏 松崎 康弘 宮藺 衛 森岡 孝文 山根 栄次  
李 明熙 若生 剛

理 事

井田 仁康 伊藤 純郎 江口 勇治 鎌田 和宏 唐木 清志  
川崎 誠司 木村 勝彦 桐谷 正信 齋藤 慶子 佐藤 公  
杉田 孝之 多田 知子 丹治 達義 寺本 誠 年友 彩  
野口 剛 華井 裕隆 藤本 和哉 真柴 晶彦 三橋 浩志  
谷田部玲生 山口 泰宏 山田 美保 山本 栄一

学生幹事

若干名（筑波大学大学院教育研究科院生・人間総合科学研究科院生）

顧 問

横山十四男 篠原 昭雄 谷川 彰英

### 【編集規定】

- (1) 本誌は中等社会科教育学会の機関誌である。
- (2) 本誌は年1回発行するものとする。
- (3) 本誌は本学会の会員の研究およびそれに資する情報の発表の場である。
- (4) 本誌の編集は本学会の編集委員会が担当する。
- (5) 本誌に掲載する原稿は、すべて編集委員会を経由しなければならない。
- (6) 本誌に掲載する原稿の採否は、レフリーの審査を経た後に委員会が決定する。
- (7) 本誌に掲載する原稿について、編集委員会は執筆者に内容の変更を要求できる。
- (8) 本誌に掲載することが編集委員会において決定した原稿・電子媒体（CD等）は返却しない。
- (9) 本誌に掲載する原稿の執筆者による校正は第1校までとする。その後の校正は編集委員会が行う。
- (10) 本誌に掲載された論文・記事等の抜刷は執筆者の希望によって作製するが、その作製費・輸送費はすべて執筆者が負担するものとする。
- (11) 本誌に掲載する原稿の図版等で、特別の経費を必要とするものについては、執筆者が負担するものとする。

### 【執筆要領】

- (1) この機関誌への投稿は、本学会の会員に限られる。非会員と連名での投稿の際は、非会員の場合は入会手続きを取らなければならない。ただし、編集委員会からの依頼原稿の場合は、この限りではない。
- (2) この機関誌への投稿原稿は、未発表のものに限られる。ただし、口頭で発表したものや私的に配布した印刷物の場合は、この限りではない。
- (3) 投稿は以下のものである。

研究論文	社会科教育の歴史・理論および海外の事例などについての研究 1,200字×17枚程度
実践論文	学校教育・社会教育などでの自らの社会科教育の実践をふまえた授業研究 1,200字×14枚程度
研究ノート	社会科教育の歴史・理論・事例研究や提言 1,200字×10枚程度
授業レポート	社会科の授業や展示の実践紹介 1,200字×3枚程度
社会科教育情報	社会科教育に関連した有益な情報の提供 1,200字×2枚程度
書評	社会科教育に関連した書籍の批評 1,200字×2枚程度
図書紹介	社会科教育に関連した書籍の紹介 400字程度

- (4) 投稿原稿の本文は必ず一太郎かWordを使って作成する。その際にA4判で横書き、40字×30行でページ設定する。手書き原稿は受理しない。
- (5) 投稿原稿は完全成稿とし、打ち出し原稿には図表も貼付する。また、必ず英文タイトルも付ける。
- (6) 投稿の際は、打ち出し原稿3部を編集委員会宛に送付する。掲載が決定した場合は、電子媒体（CD等）でデータを提出する。
- (7) 投稿の際には、必ず執筆者の名前・よみがな・所属（職名その他をふくむ）・連絡先（郵便番号・住所・電話番号・電子アドレス）を明記する。
- (8) 投稿のあて先は以下の通りである。

〒112-8600 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学国際地域学部 第36研究室  
須賀 忠芳 t\_suga@toyo.jp

- (9) 投稿を希望する者は、8月末日までに上記あて先まで事前に連絡をする。
- (10) 投稿の提出締め切りは、10月15日とする。

## 編集後記

国際社会に通用する能力の一つが、相手の意見を理解し、自分の見解をしっかりと述べられることであろう。「沈黙は金なり」といわれ、相手の心を読むことが日本的な優しさであることも、また確かであろう。こうした日本で「美」とされる文化をあわせもち、国際的に活躍できる人間を育成することは、日本の社会科の役割であろうと考える。そのような意味でも、本号の特集であるシンポジウム「中等社会科（地理歴史科・公民科）授業で『討論』をどう成立させるか」に関する論考は興味深い。社会科の理論、実践の両側面からの論考は、今後の日本の社会科を考える上で、示唆に富むものとなっている。

本号では、シンポジウムの特集論文4本の他、投稿された研究論文3本、実践論文3本、研究ノート2本、授業レポート1本、そして書評2本が掲載され、大変充実した学会誌となったと自負している。投稿して頂いた会員には厚く御礼申し上げます。また、本誌は査読制をとっている。貴重な査読意見をいただいた方にも厚く御礼申し上げます。

本号では、本学会の特徴である現職の小・中・高校の教員が多く会員となっていることを反映し、教員の方々からの論考が多く、本学会らしさが表れた。むろん、大学院生の投稿も歓迎なので、今後とも、理論的研究および実践的な論文も是非投稿していただきたい。多くの社会科教育者の研究の交流場とするためにも、学校現場が多忙であることは存じあげているが、引き続き実践論文の投稿もよろしく願いたい。

なお、本号の編集事務は、前回に引き続き東洋大学の須賀忠芳先生に担当していただいた。編集事務は、気苦労の多い仕事で、大きな負担を強いている。このように充実した内容になったのは、彼の奮闘によるところが大きい。感謝します。

本誌の制作にあたっては、編集委員一同細心の注意をはらっているが、いたらないことも多々あると思われる。多忙な本務の中で、この仕事をやっていることに免じて大目に見ていただければ幸いである。今後とも、会員の皆様のご協力とご理解の程、よろしく願います。

(井田仁康)

## 編集委員会

委員長	井田 仁康 (筑波大学)
委員	大野 新 (筑波大学附属駒場中・高等学校)
	鎌田 和宏 (帝京大学)
	栗原 久 (東洋大学)
	川崎 誠司 (東京学芸大学)
	須賀 忠芳 (東洋大学)
	田尻 信壹 (共立女子大学)
	寺本 誠 (お茶の水女子大学附属中学校)
	丹治 達義 (筑波大学附属視覚特別支援学校)
	野口 剛 (帝京大学)
	藤本 和哉 (筑波大学附属高等学校)
	谷田部玲生 (桐蔭横浜大学)
	山口 泰宏 (筑波大学附属中学校)